

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)西原 宮川マンション 新築工事

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.7</b>	1.00			<b>2.7</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.3</b>	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能	住戸のサッシはT*-1を基本とする	3.0	1.00	3.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能	コンクリート躯体として厚200以上に設定している			4.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	フローリング材LL45対応を採用			3.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00			
2.1.1 室温設定								
2.1.3 外皮性能		1.0	1.00	3.0	1.00			
2.1.4 ゾーン別制御性								
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.5</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00			<b>3.5</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.6</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50			
3.1.1 昼光率	居室に対して、大きいサッシを使用している	4.0	0.60	5.0	0.50			
3.1.2 方位別開口								
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50			
3.2.1 遮光対策								
3.2.2 昼光制御	カーテンと庇により、昼光を制御	2.0	1.00	4.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>1.0</b>	0.15	-	-			
3.3.1 照度		1.0	1.00	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.0</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.4</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	内部仕上げ材、造作家具、クロス接着剤はF☆☆☆☆を採用する	4.0	1.00	4.0	1.00			
<b>4.2 換気</b>		<b>4.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38			
4.2.1 換気量	換気風量の計算書を満たす	5.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能	居室面積の1/8以上開放可能な窓を確保している			1.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
<b>4.3 運用管理</b>								
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視								
4.3.2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.6</b>	0.40	<b>4.0</b>	1.00			<b>3.8</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>1.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.60			
1.1.1 広さ・収納性								
1.1.2 高度情報通信設備対応	各居室にLAN対応配管、光ケーブル対応			4.0	1.00			
1.1.3 バリアフリー計画		1.0	1.00					
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>5.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.40			
1.2.1 広さ感・景観				3.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース								
1.2.3 内装計画	インテリアパースをつくり、検証している	5.0	1.00	5.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>								
1.3.1 維持管理に配慮した設計								
1.3.2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.31					<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48					
2.1.1 耐震性		3.0	0.80					
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.6</b>	0.33					
2.2.1 躯体材料の耐用年数	かぶり厚、水セメント比を確保する	4.0	0.23					
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	磁器質タイルの採用によりコンクリートの中性化を抑制	4.0	0.23					
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09					
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	「建築設備の耐久性向上技術」に基づく 財団法人建築保全センター発行	5.0	0.15					
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	複数の光ケーブル採用に対応し、空配管を施工する	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.7	0.29	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	基準階の階高を2.96m以上としている	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.7	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	躯体埋め込み配管無し	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	躯体埋め込み配管無し	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	躯体埋め込み配管無し	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	躯体埋め込み配管無し	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物の熱負荷抑制			1.0	0.40	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		照明器具を可能な物全てにおいてLED照明とする	4.8	0.40	-	-	4.8
4 効率的運用			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水機器及び、節水型便器を採用する	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63	-	-	2.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.68	-	-	
1	消火剤	ノンフロンの消剤を採用する	4.0	0.50	-	-	
2	断熱材		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量を低減する	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	広島市共同住宅型建築物の規定を満たす駐車場、駐輪スペースの確保	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、日照障害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境に適した明かりとする	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	